

ふくしまMEスチューデントコースを開講しました

○スチューデントコースを開講の意味

社会インフラの老朽化がますます進行し、自然災害は激甚化している一方で、公共土木施設の維持管理を担う技術者不足が課題となっております。

このため本協議会では「地域のインフラは地域自らが守る」との考えの下、産学官がそれぞれのノウハウを活かして、社会インフラ全般のメンテナンスに関する専門的かつ実践的な知識を有するME（メンテナンスエキスパート）の育成に取り組んでいるところです。

このような中、土木工学を学ぶ高校生が、維持管理の基礎や必要な知識を身につけることは、将来に亘る技術者の育成に資するとともに、建設業の担い手確保への貢献も期待され、また、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての自覚の醸成が図られるものと考えられることから、「ふくしまMEスチューデントコース」を二本松実業高校において開講いたしました。

本コースは、3年間で9コマの講義により、維持管理に必要な資質と能力の育成を図ることを目的として実施するものであり、今年度は学校行事である「土木の日記念行事」の一環として開催し、都市システム科の1～3年生が聴講いたしました。

○開催日時・カリキュラム等

1 日時：令和6年11月12日（火）9：20～12：20

2 場所：二本松市文化センター 研修室

3 カリキュラム（3コマ） 9：30～12：20

(1) 福島県におけるインフラメンテナンスの取り組み

福島県土木部土木企画課

(2) 福島県の気候、災害環境の基礎

ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会

会長 中村 晋

(3) 橋梁メンテナンスの基礎

日本大学工学部 教授 岩城 一郎

4 受講者数：約80人



新聞掲載記事

令和6年11月15日（金）福島建設工業新聞（2面）掲載記事

ふくしまMEスチューデントコース

二本松実高で初講義

技術者育成、担い手確保へ

ふくしまインフラメン

テナンス技術者育成協議

会（中村晋会長）は12日、

二本松市文化センター

で、県立二本松実業高校

都市システム科1年生を

対象にした教育講座「ふ

くしまMEスチューデント

コース」を開講した。

土木工学を学ぶ県内の

高校生にインフラメンテ

ナンスに関する学習機会

を提供し、将来を担う技

術者の育成や担い手確保

につなげる県内初の取り

組み。1コマ50分間の講

義を年間3コマ実施し、

3年間の計9コマで維持

管理に必要な資質と能力

の育成を図る。全講義の

受講者には、就職活動等

で活用できる修了証書を

授ける。二本松実業高校

で試行的に取り組み、今

後実施校の拡大等を検討

受講したほか、同科2、

3年生も聴講し

た。開講式で中村

会長は「3年間で

維持管理等に関す

る学びを深め、本

県の明日を担うメ

ンテナンスエクス

パートを目指して

ほしい」とあいさ

つした。

旗野直広県土木

部土木企画課主幹

が「福島県におけ

るインフラメンテナン

スの取り組み」について講

義。県管理施設や、土木

部の概要などを紹介した

後、全国的な社会資本老

朽化の現状を説明。施設

の長寿命化対策として、

損傷が深刻化する前に対

策を実施する「予防保全

型」の取り組みを進めて

いることを話した。

中村会長が「福島県の

気候、災害環境の基礎

をテーマに授業を行い、

本県で発生する水害や地

震災害の原因などについ

て解説した。岩城一郎日

本大学工学部教授は「橋

梁メンテナンスの基礎

について説明し、地方に

おけるインフラメンテナ

ンスの現状と課題や人材

育成について話した。

来年の講義では、座学

2コマと現場実習1コマ

を予定している。



あいさつする中村会長

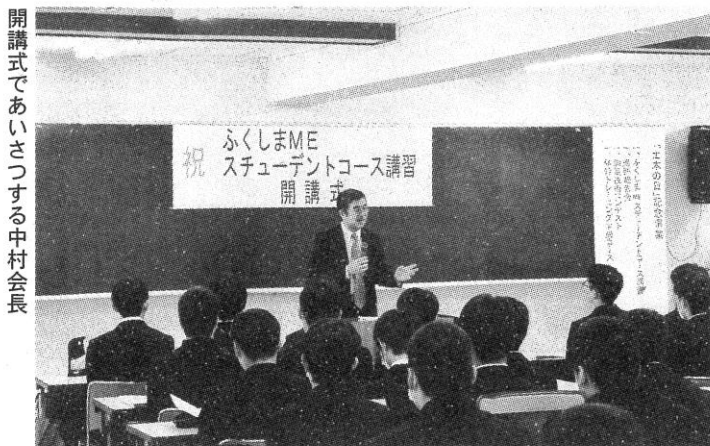
ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会

二本松実業高校生徒が基礎習得へ

MEスチューデントが開講



ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会（中村晋会長）は12日、高校生向けME講習では国内初となる「ふくしまMEスチューデントコース」を開講した。県立二本松実業高等学校都市システム科1～3年生の生徒約80人が受講



開講式であいさつする中村会長

国内初の高校生対象コース

し、社会資本の維持管理に関連した基礎知識などを座学にて学んだ。ふくしまMEスチューデントコースは、建設業の担い手確保に向け、高校生が維持管理の基礎を学び、職業人として自覚することを目的としている。3年間で9コマの講義を行い、修了証を授与する。修了実績は、就職活動時提出の履歴書に記載することで、企業が学生を採用する際の判断材料となる。

開講式では、同高校の川島孝夫校長が「この講習会は、二本松市からメンテナンス技術者を輩出したいという思いから、2022年に佐藤正道前校長らがふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会に足を運んで相談したことからスタートした」と経緯を説明するとともに「地域のインフラは地域自ら守るをキャッチフレーズとして、皆さんにこの地域を守っていただきたい」と述べた。

中村会長は「補修や補強などが必要とする構造物が多数存在しており、社会基盤施設の維持管理について注目されている。受講を機に、明日のふくしまを担うふくしまメンテナンスエキスパートを目指してほしい」と土木工学を学ぶ学生に将来への期待を込めた。

続いて初回講義として、福島県土木部土木企画課の旗野直広主幹が「福島県におけるインフラメンテナンスの取り組み」、中村会長が「福島県の気候、災害環境の基礎」、日本大学工学部の岩城一郎教授が「橋梁メンテナンスの基礎」と題した3コマの講習を実施した。学生は、維持管理についての取り組みや課題、気候や災害に関する福島県内の地域特性などを学び、インフラメンテナンスの理解を深めた。